

第2回小中学校の教育環境の改善・向上に関する有識者会議 議事要旨

1. 日 時：令和4年5月31日（火）10時～11時50分

2. 場 所：神戸市総合教育センター 706 研修室

3. 議事要旨

第3期神戸市教育振興基本計画に基づく学校教育環境の整備の取り組みについて

- ・「学校施設の老朽化対策の推進」「学校施設の機能向上」「学校施設の異常高温対策」については、当会議における委員の意見も踏まえ、引き続き、現在の方針に沿って着実に取り組みを進めていくべきである。
- ・「学校の適正規模化」及び「学級増対策の推進」については、地域によって異なる課題があったり、子供だけでなく教員にも影響する課題があったりと、さまざまな難しい問題があることから、具体的なデータなども踏まえて、もう少し時間をかけて議論を深めていく必要がある。

（以下、取り組み項目ごとにいただいた主なご意見）

○「学校施設の老朽化対策の推進」「学校施設の機能向上」「学校施設の異常高温対策」について

- ・教育委員会・学校・業者が密にコミュニケーションを図りながら、学校の運営や子供たちにできるだけ影響がないように工事を進めていくよう気をつけてほしい。
- ・音や匂いに敏感な子供がいることも認識し十分に配慮をしてもらいたい。
- ・古くなった校舎を造り替えるのではなく改修して使うことにより、子供たちに「大事に使っていこう」という呼びかけをできたり、地域の方々に懐かしく感じてもらえたりするといういい面もある。
- ・子供だけでなく、保護者や地域の方も含めたバリアフリーに対応できるよう、引き続き学校の要望を聞きながら進めていってほしい。
- ・家が和式トイレだという子供もいるので、学校のトイレが全て洋式になると困る場面も出てくる。トイレの洋式化は、時代や地域に合わせていく必要がある。
- ・トイレの整備に関しては、LGBTQ への配慮という視点も必要である。
- ・空調設備の設置が特別教室や体育館でも進んでいくということは喜ばしいことであるが、単に設置をするだけでなく実際にそれが有効に機能しているかどうかの検証も必要である。
- ・校舎の長寿命化により耐用年数を90年程度まで延ばすのであれば、空調設備やエレベーターなどの不備が出てくる可能性が考えられるので、そうならないよう着実に対応してほしい。

⇒こうした点を踏まえ、現在の方針に沿って今後も着実に取り組みを進めていくべきである。

○「ICTの基盤整備と利活用の促進」について

- ・デジタルとアナログそれぞれの長所短所を把握し、ベストミックスにより最も効果的な活用方法を模索する必要がある。
- ・オンラインを用いた学習は、録画して繰り返し視聴できることから、授業を受けることができなかつたり、ついていけなかつたりした子供に対する学習保障という意味で有用な面もあると思う。

○「学校の適正規模化」及び「学級増対策の推進」について

- ・児童生徒数が減ると、クラス替えができなくなり人間関係が固定化してしまうことから、社会性を育むという面では心配がある。
- ・子供が減ることに伴い教員の数も減ることになるので、個々の教員にかかる負担が増えたり、教員間の情報交換や切磋琢磨できるような環境をつくるのが難しくなったりする。
- ・小規模化している中学校での部活動については、部員や顧問、指導者も減っていき、部活動の存続にも関わる。
- ・小規模校対策を考える際には、農村地域や旧市街地などで特性が異なるため、それぞれの学校が最も必要とする取り組みを実施することが必要。
- ・学校の統合や校区の再編を考える際には、歴史的経緯などの地域の特性によっては理解を得ることが難しくなる可能性があることも認識しておくべきである。
- ・校区が広がると子供の通学の負担がとて大きくなる。スクールバスなどで補えるならばしっかり対応すべきと考える。

⇒学校規模の課題への取り組みについては、さまざまな難しい問題があるので、小規模化の進行状況などの具体的なデータなども踏まえて、もう少し時間をかけて議論を深めていく必要がある。